

神に信頼して生きる

詩編九編

(日)

御名を知る者はあなたに信頼する。主よ、あなたは尋ね求める人をお見捨てにならなかつた。(11)

詩人は主による救いの恵みを感じて賛美する中で、「御名を知る者はあなたに信頼する」と語ります。神がいかなるお方であるかを知ったならば、人は神に信頼するようになるというのです。私たちが神に寄り頼まないのは、神をよく知らないからではないでしょうか。神に関する知識はあっても、人格的に神ご自身を知らない点にあるのではないのでしょうか。詩人は神がいかなるお方であるかを体験的に知っていました。「主よ、あなたは尋ね求める人をお見捨てにならなかつた」と。これまでも主は、助けを求める私を捨てることはなかつた。だからこそ、再び苦しみに直面したときも、神に信頼して救いを求めるのです。私たちは神ご自身をどれほど深く知っているのでしょうか。どんなときにも「あなたに信頼します」と告白できるように、神をいよいよ深く知ろうではありませんか。